

# 社会奉仕功勞 くにふぁにほんご KUNIFA日本語サポート



長年に亘り、  
外国籍の方に向けた日本語  
の学習サポートを行っている団体。  
公民館主催の日本語講座の後にフォロー  
アップの事業（日本語学習支援）を  
行うほか、単独での日本語教室の実施  
や、日本語の発表会の企画等を行うな  
ど、市内在住・在学の外国籍の方を  
中心とした地域の人達の福祉  
向上に貢献している。

平成29年2月14日（火）に国立市公民館に  
て、KUNIFA日本語サポートの日本語学習支  
援が実施された。30名近くの参加者で活気  
に満ちた実習室へ取材に向った。

— 沢山の方が参加されていますが、いつもこれほ  
どの人数が集まるのですか。

（大熊代表）火曜日（取材日）の開催は参加人数  
が多く、スタッフ15名位、受講者20名前後が参加  
します。日本語学習支援は水・木曜日にも開催  
しており、それぞれスタッフと受講者あわせて15  
名くらいの参加です。土曜日に留学生と就労者  
を対象とした授業形式の講座も開催しています  
が、こちらは平日に來られない方の参加が多く、  
スタッフとあわせて30名程度が集まります。

— 受講者はどのような方が多いですか。

年齢も国籍も様々で、一概には言えません。昨  
年度は全部で21カ国の方が参加してくれました。  
日本語レベルも受講者によって異なり、日本語能  
力試験の最上級を取得することを目的に参加す  
る方もいれば、日常的な会話を覚えることを目  
的にしている方もいます。

— 多様な受講者について、どのようにサポートを  
行っていくのですか。

会全体で統一したカリキュラム等はなく、受講  
者に自分のレベルにあったテキストを持ち寄っても

らい、それに沿ってマンツーマンで日本語の読み  
書きを教える形式をとっています。

マンツーマンのペア組は、基本的に1年は変え  
ません。本会はテキストベースでのサポートを行  
うだけではなく、受講者の生活相談も行ってい  
ますので、少なくとも1年は時間をかけてスタ  
ッフと受講者の信頼関係を構築する必要があ  
るのです。

— 大熊代表が会に所属したきっかけとは何で  
すか。

大学時代に、外国籍の方に日本語を教える仕  
事があることを知り、興味を持ったのがきっか  
けです。その後、公民館が主催する「日本語教  
育入門講座」に参加し、外国語として扱われる  
日本語を実際に見聞きして面白さを体感し、  
自分もやってみようと思ったのです。

— 日本語を教えるための工夫はありますか。

会としての原則ですが、日本語以外の言語は  
使わず、日本語で日本語を教える方法を徹底  
しています。他言語を使用することで、受講者  
が馴染のある言語に甘えてしまうことを避ける  
ためです。

細かい教え方はスタッフによっても違いますが、  
私個人としては、日常会話に関して言えば、文  
法ベースより例文ベースで教えるようにしていま  
す。例えば、「花がきれいだ」と「きれいな花だ」  
という2つの言葉があります。「この2つの言葉の

ニュアンスの違いを文法から理解してもらっ  
るのは日本人でも容易でないように感じます。  
それよりは、どういう状況だとどちらの言い  
回しを使うのか、というパターンを覚えても  
らう方が、実用しやすいと考えています。も  
ちろん、検定の受験を予定している方には  
文法もきちんと教えます。

— 日本語を学ぶ上では、日本の風習に関す  
る知識も必要になります。風習の内容によ  
っては外国籍の方に理解されにくいものもあ  
るので、できる限りわかりやすく伝えるため、  
私は絵本を使って説明しています。

会では教材研究の機会も設けており、ス  
タッフが意見交換しながら教え方の精度を  
高めています。

— 今後の活動の方向性について教えてください。

以前、急遽日本で医療機関にかかること  
になった外国籍の方が、自国と違う日本の  
保険や助成の仕組みが理解できず混乱して  
いたときに、当会の受講者で同じような経  
験のある方がフォローアップに付いたことが  
あります。このとき、日本人にはできない、  
国籍や経験の同じ人だからできる寄り添い  
方があることを知りました。今後は、「ここで  
日本語を身に付けた受講者が、自身の国籍  
や経験等を活かして地域貢献ができる機会  
を当会でつくっていきたくて考えています。